

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年7月27日（月）

2 確認箇所

共用プール建屋（図1）

3 確認項目

2号機燃料取り出し作業の状況

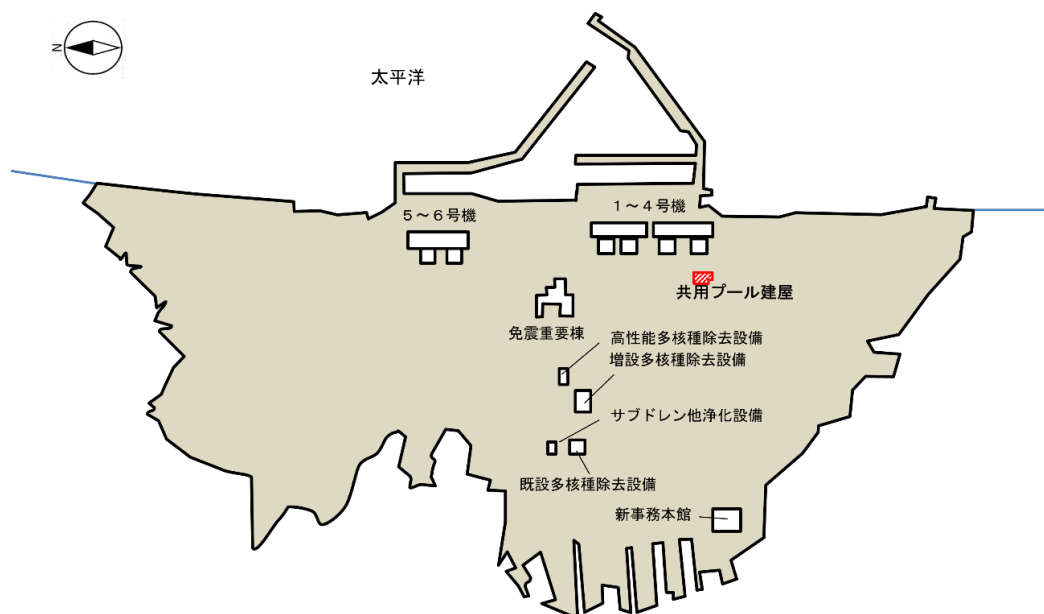
4 確認結果の概要

東京電力では、2号機使用済燃料プールに貯蔵されている615体の燃料について、令和10年度までの取り出し完了を目指している。令和8年6月2日から燃料の取り出し作業が開始されており、7月17日までに21体の燃料の取り出しが完了している。

今回、新たに7体の燃料取り出し作業が行われ、燃料棒7体を格納したキャスク（使用済燃料の輸送や貯蔵に使われる専用の容器）が共用プール建屋内へ運搬されたことから、その状況について確認した。

- ・現場確認時、キャスクは共用プール建屋内のキャスク除染ピット（以下「ピット」という。）内に設置されており、ピット周辺は防護柵により立入りが制限されていた。（写真1）
- ・ピット及び共用プール周辺の排水溝を確認したところ、水の漏えい等の異常は認められなかった。また、建屋地下階に設置されている漏えい検知装置（漏えい目視箱）において、水の漏えいは認められなかった。（写真2）
- ・共用プールの水位はオーバーフロー水位※付近に維持され、水面から目視により使用済燃料が確認できた。また、共用プール内に浮遊物等の異物は認められなかった。（写真3）

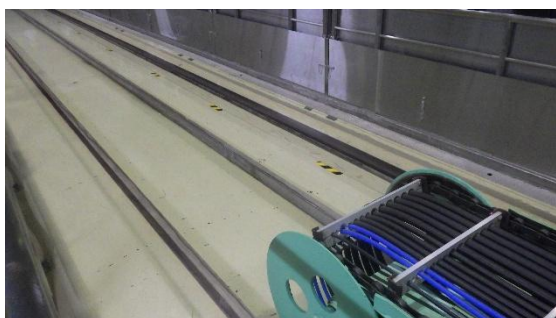
※オーバーフロー水位：使用済燃料プールにおいて、冷却系が適切に運転している状態を示す基準水位。この水位を超えてオーバーフローした水は、スキマサージタンクに流入し、熱交換器やろ過器を通過したのち、再び使用済燃料プールへ戻される。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



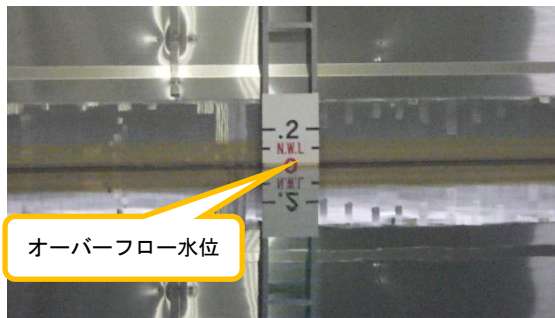
(写真1) キャスク除染ピットにおける
キャスク設置状況



(写真2－1) 共用プール周辺の床面
の状況



(写真2－2) 漏えい目視箱(地下階)
の状況



(写真3) 共用プールの水位

5 プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常値は確認されなかった。